

はじめに

2

第二章

新春から
晩春にかけて

睦月〔色留袖〕波に千鳥と花筏

10

如月〔染名古屋帯〕白付け三蓋老松

22

弥生〔訪問着〕あけぼの色〔渚〕

34

卯月〔暈し小紋〕東雲格子

46

お稽古着〔小紋〕若松菱

56

第三章

初夏から
晩夏にかけて

皐月〔附下・単衣〕叢雲暈し

62

水無月〔訪問着・単衣〕夏秋草に桂帯

74

文月〔訪問着・絹〕道長取り友禅

86

葉月〔訪問着・絹〕芒に雪輪

98

第三章

初秋から
冬にかけて

長月〔染名古屋帯・絹〕藍鼠地 芒

110

神無月〔附下〕フレスコ調 菱唐草

122

霜月〔中振袖〕流水取り手描き疋田にエ霞

134

師走〔訪問着〕霞取り連山小花慶長

146

第四章

京友禅のきものが
できるまで
京正を支える職人たち

京友禅の製作工程

158

下絵／糊糸目／友禅／引き染め／描き疋田／金加工／
刺繍／地直し（紋洗い）／紋上絵／仕立て

お誂え〔附下・単衣〕エ霞に唐草

170

第五章

紋のおはなし

抜き 日向紋

174

縫い 中陰紋

175

家紋について考える

176

用語索引

おわりに

180 182

